

ミテ・ハナソウ展 2019

もうひとつの夏休み

ーフシギの世界で、ミテ・ハナソウ！

今年の夏休みは、飛行機に乗ってもたどり着けない、
不思議な場所を旅してみませんか？



画像左から：池平徹兵《視界の外が呼吸する》2019年 油彩 キャンバス 162 x 162 cm

大崎のふゆき《untitled album photo》2017年 Cプリント 120 x 80 cm

平子雄一《Leftover 5》(部分) 2018年 アクリル キャンバス 388 x 324 cm

2019年8月3日（土）～9月16日（月・祝）

出品作家：池平徹兵 大崎のふゆき 平子雄一

【 展覧会情報 】

展覧会期：2019年8月3日（土）～9月16日（月・祝）【開催日数：39日間】

休館日：8月5日(月), 13日(火), 19日(月), 26(月), 9月2日(月), 9日(月) *8月12日、9月16日は祝日のため開館

開館時間 10時～18時（入館は17時30分まで）

会場：佐倉市立美術館 〒285-0023 千葉県佐倉市新町 210 番地 1 階エントランスホール・2 階展示室

主催：佐倉市立美術館 企画協力：NPO 法人芸術資源開発機構(ARDA アルダ)

観覧料：高校生～一般 フリーパス 500 円（期間中何回でも有効、前売・20 名以上の団体は 400 円）

中学生以下無料 市内在住の中学生以下のお子さん連れは保護者 1 名無料

ホームページ <https://www.city.sakura.lg.jp/sakura/museum/>

【この展覧会について】

本展覧会は、夏休みに家族や子どもたちが何度も美術館を訪れ、現代美術作品を味わい、楽しんでいただくための展覧会です。その仕掛けとして、カーペットを展示室全面に敷きつめ、ゆっくりと作品に向き合う空間をデザインしました。展示室のカーペットには、切り抜かれた通路が、小川や小道にもみえるように流れています。森の奥深くにまぎれこんだような空間や、ヴンターカンマー(驚異の部屋)のようなアトリエ、絵画のように見えてゆっくりと動いている映像が浮かび上がる部屋、アートについて考える研究室など、不思議な空間を行ったり来たりしながら、作品世界を楽しんでいただけます。夏休み期間中は、鑑賞コミュニケーターの「ミテ＊ハナさん」が、研究室で迎えます。子どもも大人も靴を脱いで、寝転んだり、腰掛けたりしながら、作品についてミテ＊ハナさんと語りあうことで、芸術作品が身近に感じられ、アートを心から楽しむことができるようになれば、という試みです。もちろん、一人で静かに展示を楽しんでいただくこともできます。

展示コンセプトは、3人の現代美術家による「もうひとつの夏休み」。懐かしい感覚や、どこかで見たことがあるようなモノが潜んでいて、アレっと気を取られ、空間に身を置いているうちに、いつのまにか、日常の裏側にあるもう一つのフシギな世界へといざなわれます。飛行機にのって、遠くに飛んでいなくても、想像力を使って、フシギの世界を旅する力が、美術にはあります。なんでもないと思っていた普段の生活が揺らぐような感覚、この世界はなんなのか、私たちはいったい何者か、という解けることのない問いを楽しんでいただければ幸いです。

■ 背景

佐倉市立美術館の教育普及事業では、現代の美術が私たちに与えてくれるものは、私たちの日常や生活を見直す新しい視点ではないかと考え、「美術」や「美術館」と「まち」や「人」とのかかわりを考える「体感する美術」シリーズなどを展開してきました。また、平成25年度からは、鑑賞者自身を育てていくための「対話による美術鑑賞プロジェクト ミテ・ハナソウ」を進めてまいりました。グループで話しながら作品をみていくことで、作家や作品についての知識がなくても楽しめる鑑賞の入り口として、対話による鑑賞は、様々な美術館で取り組まれています。このプロジェクトの一環として、平成27年度には、鑑賞コミュニケーターの「ミテ＊ハナさん」が会場に常駐し、対話を通して鑑賞することで、収蔵作品の新しい価値を発見する「ミテ・ハナソウ展」を開催。平成28年度には2回目の「ミテ・ハナソウ展2016」、平成29年度は柴宮忠徳展の一部を会場とした「ミテ・ハナソウ展2017」を開催しました。平成30年度は「ミテ・ハナソウ・ルーム」をエントランスホールに設置し、開催中の展覧会とタイアップしたり、展示のない期間には独自の鑑賞プログラムを試みました。通常の展覧会は来館者の訪問は一度きりですが、この展覧会にはリピーターが多く、毎年あるいは、会期中何度も美術館を訪れる子ども達も現れています。

■ 美術館アクセス

- ・京成佐倉駅南口より徒歩8分、または、ちばグリーンバス「JR佐倉駅行」か「第三工業団地行」で「佐倉市立美術館」下車すぐ
- ・JR佐倉駅北口より徒歩20分、または、ちばグリーンバス「京成佐倉駅行」か「田町車庫行」で「二番町」下車すぐ
- ・東関東自動車道佐倉インターより約5km

佐倉市駐車場(無料)をご利用ください。ただし8月後半以降は、駐車台数が非常に限られます。公共交通機関をご利用ください。

【お問合せ】

本展につきましてのお問合せ及び写真資料のご請求は下記までお願い申し上げます。

〒285-0023 千葉県佐倉市新町210

佐倉市立美術館 担当：永山智子

TEL: 043-485-7851 FAX: 043-485-9892

E-MAIL: n.nagayama@city.sakura.lg.jp

【 展示作家と会場構成 】



大崎 のぶゆき OSAKI, Nobuyuki

1 階入口のエントランスホールでは、大崎のぶゆきさんの映像を使ったインスタレーションが迎えます。大崎さんは記憶や認識をテーマとして、自分とは何か、自分が存在する世界とは何かを問う作品を作り続けてきました。いつかどこかで見た懐かしいような風景や人物が、気づかないくらいゆっくりと変容し、やがて消失していきます。今まで確かなものだと感じていた日常が、ゆらゆらと頼りなく溶け出していくかのような不思議な感覚を呼び起こします。2 階展示室にもインスタレーションを展示します。

▶ 《Trace Trip, Time Capsule(H.K.)#04》 2015年 インスタレーション 撮影：加藤健



平子 雄一 HIRAKO, Yuichi

平子雄一さんの展示室には、絵画作品とともに立体、モビールなどが置かれ、その絵の中に入り込んだような空間が広がります。平子さんは人間と植物、人工物と自然が融合した不思議な世界を描き出してきました。私たちは、古代から現在まで自然を崇め、あるいは管理しようとしてきましたが、平子さんが描くのは、今までの関係性とは別な次元で、自然と人間がフラットに共生する世界のようなようです。人間のような樹木のようなモチーフが棲まう森は、ユートピアにもディストピアにもみえることでしょう。

▶ 個展「SPROUT」2017年 Galleri Christoffer Egelund（コペンハーゲン）での展示風景



池平 徹兵 IKEHILA Teppei

生活の中で出会う心惹かれるものを集め、毎日一番描きたいものをキャンパスの描きたいところに描くことで、作品を制作する池平徹兵さん。作品は池平さんそのものでもあるかのようです。池平さんの自宅兼アトリエは、収集物と作品で溢れています。置く場所一つ一つにこだわって、好きなもののばかりで形作られた空間は、まるで、博物館の前身といわれるヨーロッパ中世の「ヴンダーカンマー(驚異の部屋)」のよう。展示室にはその池平さんのアトリエを再現します。

▶ 「今を灯して」2018年 hpgrp GALLERY TOKYO での展示風景

研究の間

鑑賞コミュニケーター「ミテ＊ハナさん」が常駐し、来館者の体験をサポートします。ミテ＊ハナさんと作品について話したり、作品や作者のことを調べたり、壁一面に貼り出された来館者のコメントを読むことができます。コメントシートとクリップボードの貸し出しをしています。

ミテ＊ハナさんは、8月中の毎日と9月の土日祝には常駐しています。



【関連イベント】

会期中

夏休み中は毎日開催！ ミテ・ハナソウ・カイ

鑑賞コミュニケーター「ミテ＊ハナさん」と一緒に、おしゃべりしながら、作品を楽しむツアーです。

自分とは異なる、多様な見方を知ること、作品の新しい魅力を発見できます。

日時：8月▶開館日の毎日 9月▶土日祝のみ

時間：13:00～14:00

定員：先着 20 名程度／申込不要

*6 人以上のグループは個別対応可・要申込（詳細はホームページをご覧ください。）



アーティストに直撃！

13 時からのミテ・ハナソウ・カイの後に、展示作家が登場します。作品についての裏話をきいたり、鑑賞者が疑問に思った事を質問したり。アーティストとその作品と来館者がフラットに関わり、おしゃべりする時間です。

日時：3 回とも 14:00～15:00

9 月 8 日(日) 池平徹兵

9 月 14 日(土) 大崎のぶゆき

9 月 15 日(日) 平子雄一

*申込不要

赤ちゃん וגロゴロツアー

赤ちゃん連れのみなさんで、一緒にゴロゴロと寝転びながら、作品を楽しむツアーです。ミテ＊ハナさんがナビゲートします。

日時：8 月 21 日(水) 11:00-12:00

定員：0～1 歳のお子さんとその保護者 5 組

*要申込 先着順（7 月 1 日申し込み開始）

*応募方法等詳細は、ホームページをご覧ください。

***上記のイベントはすべて参加無料です。ただし高校生以上の方は観覧フリーパスが必要です。市内在住の中学生以下のお子さん連れは保護者 1 名が無料です。**

会期前

池平徹兵 ワークショップ「光の行進」

佐倉の広い空に飛んでいるモノといえば…。そうです、飛行機や鳥を、展示作家の池平徹兵さんと一緒につくります。できあがった作品は「光の行進」として、池平さんの作品と一緒に、会期中展示されます。

日時：7 月 27 日(土) 10:30～12:00／13:30～15:00 2 回実施

対象：小学生以上

定員：各回 16 人

*要申込 先着順（7 月 1 日申し込み開始）

*応募方法等詳細はホームページをご覧ください。



©Teppei Ikehira

【 展示作家・参考資料 】

池平 徹兵 IKEHILA, Teppei

■略歴

1978 年 福岡県生まれ 島根大学教育学部卒

2013 年 「第 16 回岡本太郎現代芸術賞展」 入選 岡本太郎記念館(東京)

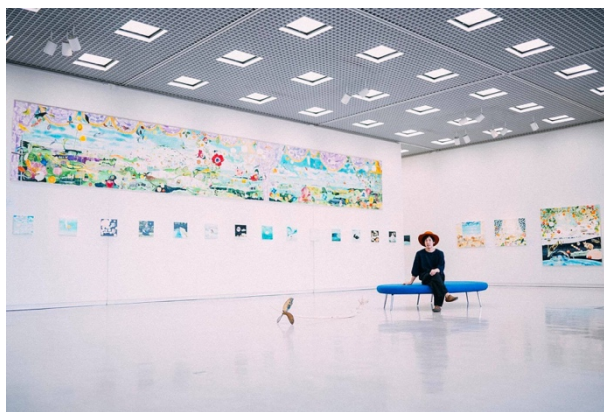
「Project N」 東京オペラシティ アートギャラリー(東京)

2015 年 「この花」 H.P.FRANCE WINDOW GALLERY (東京)

2017 年 「VOCA 展 2017」 上野の森美術館 (東京)

その他、国内やアメリカでの展覧会多数。絵本『ふつうのいるか』（株式会社トリトンクラブ出版・2014 年）の出版や、壁画の委託制作や、ワークショップなど活動は多岐にわたる。

■作家ホームページ www.teppeikehila.com



上段：左・個展「Blue Earth」2000 年・島根県立美術館ギャラリーでの展示 / 右・アトリエの様子

下段：左・《戦場の産声》2017 年・油彩 キャンバス・1620 x 1620 cm / 右・サメル西条保育園（広島・2010 年）での壁画制作

大崎 のぶゆき OSAKI, Nobuyuki

■略歴

1975 年 大阪府生まれ 京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了

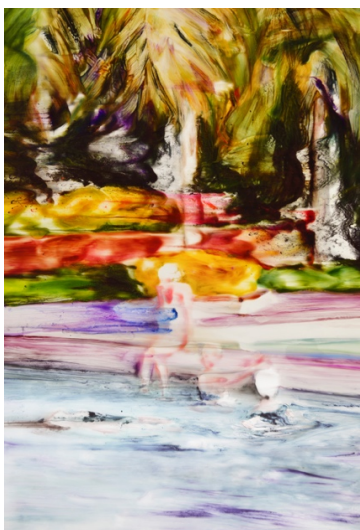
2008 年 「Meltdown」 京都芸術センター（京都）

2013 年 「アートがあれば11-9人のコレクターによる個人コレクションの場合」 東京オペラシティ アートギャラリー(東京)
「VOCA展2013」 VOCA 佳作賞 上野の森美術館（東京）

2015 年 「未見の星座-つながり/ 発見のプラクティス」 東京都現代美術館（東京）

その他、国内のみならずドイツ各地・台湾・中国にて、個展・グループ展多数。

■作家ホームページ www.nobuyuki-osaki.com



上段：左《untitled album photo》2017年・C プリント・90 x 60 cm / 右《Trace Trip, Time Capsule (H.K.) #04》2015年・インスタレーション 撮影：加藤健

下段：左・《Trace Trip, Time Capsule (H.K.) #03》2015年・インスタレーション（右・部分） 撮影：加藤健

平子 雄一 HIRAKO, Yuichi

■ 略歴

1982年 岡山県生まれ Wimbledon College of Art (イギリス) Fine Art: Painting 卒

2013年 「VOCA展2013」 VOCA奨励賞 上野の森美術館（東京）

2015年 「Grafted Tree」 Waiting Room (東京)

2018年 「Project N 71」 東京オペラシティ アートギャラリー(東京)

「Leftover」 第一生命ギャラリー(東京)

その他、国内のみならずデンマーク・イギリス・オランダ・アメリカ・カナダ・中国・台湾などで、個展・グループ展多数。

■作家ホームページ www.yuichihirako.com



上段：左・個展「Leftover」2018年・第一生命ギャラリーでの展示 / 右・《My Phantom 27》2016年・Mixed Media・W20 x H29 cm

下段：左・《Boy 91》2016年・Mixed Media・W21 x D14 x H33 cm / 右・《Wooden Works 3》2015年・Mixed Media・W300 x H200 cm